

Japan River Restoration Network News Letter

発行：日本河川・流域再生
ネットワーク事務局

〒102-0082
東京都千代田区一番町8番地
一番町FSビル3階
財団法人 リバーフロント整備センター内
Tel: 03-6032-7121
Fax: 03-6032-7456
E-mail: info@a-rr.net
URL: <http://www.a-rr.net/jp/>

巻頭書記

先月は、JRRN が事務局を務める「アジア河川・流域再生ネットワーク (ARRN)」に関する行事が多く開催され、河川再生分野のアジアにおける意見交換と交流が活発に行われました。

JRRN は、日本で蓄積された様々な技術・情報や素晴らしい取組みをアジアに向けて積極的に発信し

ていく役目はもちろんのこと、アジアにおける交流の成果を、日本国内のプロフェッショナルのみならず、河川環境の再生の取り組む様々な方々に還元し、それぞれの活動に生かして頂ければ幸いに思います。

引き続き、JRRN 会員皆様の積極的なご支援とご協力をお願い申し上げます。

活動報告(1)

「ARRN 河川環境講演会～海外における環境水工学の最新の研究紹介」開催報告

2008年9月16日(火)、ARRN 主催「河川環境講演会～海外における環境水工学の最新の研究紹介」が開催され、生態環境工学及び環境水工学の分野で世界的に活躍する二人の研究者をお招きし、河川再生や水環境改善に関わる最新の技術紹介とともに、参加者との意見交換が行われました。

- 講師： IAHR 副会長 ピーター・グッドウィン氏、
IAHR 副会長 ジョセフ・リー氏
- 日時：平成20年9月16日(火) 13:30～17:20
- 会場：東京大学工学部1号館15号講堂
- 主催：ARRN、財団法人リバーフロント整備センター、国際水工学会 (IAHR) 日本支部

IAHR 及び ARRN の会長を務める玉井信行先生による開会挨拶の後、「知識情報水工学を活用した生態環境工学の新しい動向」という演題で、南北アメリカ各地の自然再生現場で活躍するピーター・グッド



開会挨拶(玉井信行 IAHR 会長・ARRN 会長)

ウィン氏による最新の生態環境工学の話題が紹介されました。



講演の様子(ピーター・グッドウィン IAHR 副会長)

続いて、密度流の専門家として活躍するジョセフ・リー氏からは、「エスチュアリーにおける環境水工学の最近の課題」というタイトルで、香港ベイエリアの水環境改善に関する最新の研究成果についてご講演を頂きました。



講演の様子(ジョセフ・リー IAHR 副会長)

また講演後に開催された総合討議では、本研究分野のこれからの課題や、IAHR、ARRN への期待などについて参加者を交えた議論が行われました。

JRRN 事務局では、今後もこのような素晴らしい機会を活用し、河川環境分野の国内外での情報共有に務めてまいります。

なお、配布資料等は以下の URL より入手可能です。

<http://www.a-rr.net/jp/info/letter/eventreport/931.html>

(JRRN 事務局 和田彰)

活動報告(2)

「第 1 回 ARRN 情報委員会・技術委員会」の開催報告(中国・北京)

2008 年 9 月 24 日(水)、アジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)の「第 1 回情報委員会」及び「第 1 回技術委員会」が中国・北京にて開催されました。

両委員会は、第 2 回 ARRN 運営会議(2007 年 12 月東京開催)で設立が決まり、ARRN の今後の活動方針、ARRN メンバー内での河川再生に関わる情報交換のあり方、各国内ネットワーク(RRN)の活性化策、また ARRN として共有すべき河川環境分野の技術情報や河川再生ガイドラインのあり方について、日中韓それぞれの代表者で協議することを目的に開催されました。

委員会の詳細は以下のホームページをご覧ください。

- 第 1 回情報委員会
<http://www.a-rr.net/jp/info/letter/report/944.html>
- 第 1 回技術委員会
<http://www.a-rr.net/jp/info/letter/report/945.html>



(JRRN 事務局 和田彰)

寄稿記事

由良川フォーラムと WakWaK プロジェクト

寄稿者：上野 正博（京都大学フィールド科学教育研究センター舞鶴水産実験所・JRRN 会員）

由良川は当センター芦生研究林に源を発し、京都府中央部(中丹)を流れ日本海にいたる。2004年23号台風のもたらした洪水でバスの屋根に取り残された方達の救出劇を記憶されている方も多いと思う。

この川の流域を管轄する京都府中丹振興局とこの川をフィールドに森里海のつながりを研究する当センターが、流域の方々に森里海の話題を提供する由良川フォーラムを8月30日に開催した。

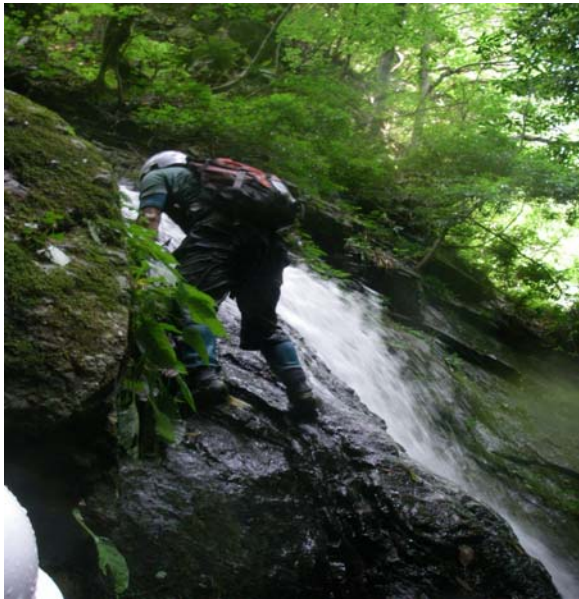
第4回となったフォーラムは、霊長類学の世界的権威として名高い河合雅雄さんに特別講演「里山放棄は何をもたらしたか」をしていただいた。その甲斐もあり参加者はこれまでの倍増する200人を超え、大盛会であった。



河合雅雄氏の特別講演

河合さんの講演は、京大霊長類研究所長・日本モンキーセンター長を歴任された後、故郷の兵庫県篠山市を根城に里山とそこに暮らす生物の保護に取り組んでこられた豊富なフィールド経験に裏打ちされていて参加者の共感を集めた。

その後を引き継いで講演された(独)土木研究所自然共生センター長の萱場祐一さんの「川を見る 生物から流域まで」は、各地の河川で進められている環境修復(ミチゲーション)の一線に携わっておられる立場からのものでたいへん示唆に富むものであった。



由良川源流域・芦生の谷を遊行する

源流から河口までの生物と環境を調べる森里海連環実習。
2泊3日かかる川下りのスタート

とくに、開発する側と保護する側とでは川を眺める視点が異なることが多く、お互いが歩み寄るには、視点を意識的に変えることが大事だとの指摘は貴重なものだった。



由良川中流・かやぶき屋根の里

由良川は幹線流路延長 147km, 全国 19 位の大きな川で, 百人一首の「由良の渡を渡る舟人舵も絶え…」や山椒太夫の舞台として有名な河口域をはじめ, 中下流域には多くの遺跡・古墳が散在し, 元伊勢・何鹿(いかるが)・志賀・物部など古代文明とのつながりを思わす地名がたくさんあって, 流域は古くから開けていた。

しかし, 右の写真のように下流域が極端に緩勾配のため, 古来, 大洪水が絶えず, 16 世紀末, 中流の福知山盆地で河川改修を行った明智光秀は神として祀られている。



下流で採集されたアユ

図抜けて大きいのは放流アユ。ダムのために天然アユが遡上できない上流ではこのサイズばかり。下流にいくほど小さなものが増えるので小さいのは天然遡上アユか？

実は WakWaK プロジェクトには, 本来の研究以外に隠された目的がある。古来, 由良川の天然アユは日本一のアユともてはやされ, 人々が担うアユ箱によって活かしたまま京の都まで運ばれていた。近くは昭和の初め, 北大路魯山人が鎌倉の星岡茶寮へ, 柄杓の滝掛けという苛酷な換水方法を使って活かしたアユを運ばせた。

しかし, 現在の由良川には, 度重なる河川改修と過剰な放流により, かつての面影はない。森里海連環学の構築によって, 日本一の天然アユを復活することが我々の野望である。



河口から 25km 上流にある波美橋(沈下橋)

橋の向こう側で河床標高が 0m になる。2004 年 23 号台風の洪水では水位が橋上 6m に達した

5 年前, 当センター発足と同時に開始した若狭湾河口域 (WakWaK) プロジェクトは, 小川における小手調べの後, 若狭湾海域陸域統合プロジェクトと改称して由良川の研究に本格的に取り組んでいる。

森里海を連関させる軸としての川の役割を解明することを目的とし, 当初数人で始めたプロジェクトが現在は 10 人あまりの学生・院生を抱えるプロジェクトに育ちつつある。



河口砂州内側での地曳き網採集

後方は現代の「由良の渡」: 北近畿タンゴ鉄道由良鉄橋。海岸近くにあるこんなに低い鉄橋は珍しく砂州上に三脚を据える鉄道ファンも…

(詳しくは <http://fserc.kais.kyoto-u.ac.jp/> をご覧下さい)

会議・イベント等 (2008年10月～)

(ARRN・JRRN 主催・共催の会議・イベント)

■ ARRN 主催「第5回 水辺・流域再生に関わる国際フォーラム」

○日時：平成20年11月4日(火) 8:45 - 12:00 (予定)

○会場：中国・北京 清華大学 (予定)

(その他の河川再生に関する主なイベント)

■ 第6回「川の自然再生」セミナー ～中小河川の自然再生

○日時：2008年10月2日(木) 13:00～17:15

<http://www.a-rr.net/jp/event/03/895.html>

■ 景観掘り起こし勉強会【志木・富士見エリア】

○日時：2008年10月13日(月)

<http://www.a-rr.net/jp/event/02/943.html>

■ 環境とダムの共存に関する国際シンポジウム

○日時：2008年10月20日(月)

<http://www.a-rr.net/jp/event/03/874.html>

■ 第125回河川文化を語る会「硫黄酸化物と樹木の立ち枯れの関係」

○日時：2008年10月20日(月) 18:00～20:00

<http://www.a-rr.net/jp/event/03/841.html>

■ 第17回 全国川サミット in 利根川

○日時：2008年10月25日(土)

<http://www.a-rr.net/jp/event/03/947.html>

■ 国際フォーラム 世界の都市はかわる 川の再生と洪水・生きもの・やすらぎ

○日時：2008年11月13日(木) 13:00～17:30

<http://www.a-rr.net/jp/event/03/918.html>

■ 第126回河川文化を語る会『水質ワースト1から「遊べる川」へ～貝塚市・近木川と子どもたちの12年』

○日時：2008年11月26日(水) 19:00～21:00

<http://www.a-rr.net/jp/event/03/935.html>

冊子・ビデオ等の紹介

■ 河川景観デザイナー「河川景観の形成と保全の考え方」の解説と実践(2008.7)

・編集：『河川景観の形成と保全の考え方』検討委員会

・出版社：リバーフロント整備センター

・発行年月：2008年7月

・価格：4,001円(税込)

・ISBN：978-4-947726-34-6



本書は、河川景観の形成・保全に関する調査や計画の流れ、設計・整備・維持管理等を行うために必要な視点、考える手順、整理すべき情報、活用すべき手法等が分かりやすく解説されています。

■ 水辺のミュージアム (2007.9発行)

・発行：(財)リバーフロント整備センター

・価格：無料



全国の「水辺」にかかわる資料館・博物館の中から、特色のあるものを紹介した冊子が発行されました。一見して捉えにくい水辺の魅力や展示方法をわかりやすく紹介しています。

※ 本書をご希望される方は、「(財)リバーフロント整備センター技術普及部」までご連絡ください。送料のみご負担いただいた上で、無料で提供致します。
電話：03-3265-7121 Fax：03-3265-7456

事務局からのお知らせ

JRRN が設立されて間もなく 2 年となります。JRRN の活動にご関心のある方、また国内外の河川再生の情報に興味をお持ちの方は、是非 JRRN にご加入下さい。会員資格は下記の通りです。

■ JRRN の登録資格

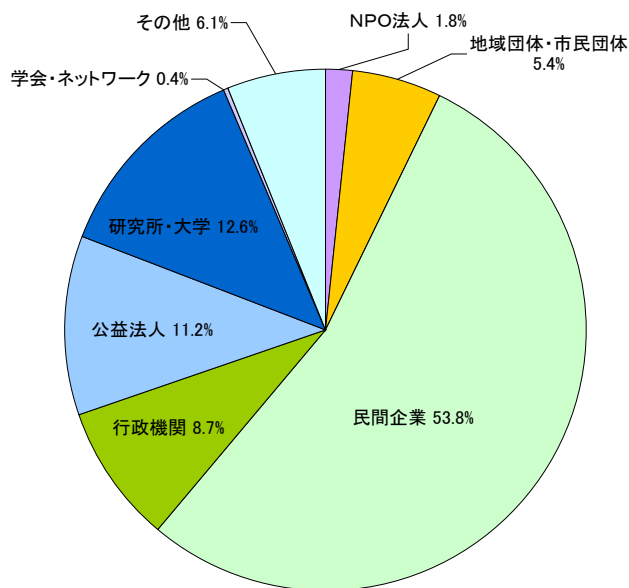
JRRN への登録は、個人、団体を問わず無料です。

市民団体、NPO 法人、行政機関、民間企業、研究者、個人等、所属団体や機関を問わず、積極的に河川環境の整備・改善に携わるすべての方々のご参加を歓迎いたします。

■ 会員の特典

会員登録をされた方々へ、様々な「会員の特典」をご用意しています。

- (1) 国内外の河川環境に関するニュースを集約した「JRRN ニュースメール」が週に 1 回～2 回メール配信されます。
- (2) 国内外のセミナー、ワークショップ等の開催情報が入手できます。また JRRN 主催行事に優先的に参加することが出来ます。
- (3) 必要に応じた国内外の河川再生事例等の情報収集の支援を受けられます。
- (4) JRRN を通じて、河川再生に関する技術情報やイベント開催案内等を国内外に発信できます。
- (5) 韓国、中国をはじめとする、ARRN 加盟国内の河川再生関連ネットワークと人的交流の橋渡しの支援を受けられます。



2008 年 9 月 30 日時点の個人会員構成

【問い合わせ先】

日本河川・流域再生ネットワーク (JRRN) 事務局

財団法人リバーフロント整備センター 技術普及部内
東京都千代田区一番町 8 番地 一番町 FS ビル

Tel: 03-3265-7121 Fax: 03-3265-7456

E-mail: info@arr.net

URL: <http://www.arr.net/jp/>

■ 会員登録方法

以下のホームページより個人・団体会員登録が可能です。

<http://www.arr.net/jp/info/member.html>